

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	士幌ひまわり館	評価実施年月日	平成19年5月22日
評価実施構成員氏名	鈴木美嘉 竹内せい子 青木栄子 瀬戸悟 木皿由紀子 大平玲子 家常義美 宇野麻梨 家常和子 家常康世		
記録者氏名	鈴木美嘉	記録年月日	平成19年5月30日～6月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ひまわり館独自の理念があり、朝の申し送りや会議の際に皆で確認しあっている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は玄関、スタッフルームに掲示してある。朝の申し送りや会議の際に皆で確認しあっており、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議にて話題にしたり、家族との話の中で話題にしたりしている。地域の皆様に理解していただけるようひまわり通信にそのような話題を記事にしていることもある。		ホームの理念をグループホームの意義と併せてもっと地域の中に浸透させ、入居者が地域の中でより暮らしやすい環境が整うようひまわり通信などを通して理解を促していく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者と一緒に行ったものをお裾分けに行ったり通信を配布しに行ったりして、日常的なつきあいができるように努めている。		もっと気軽に立ち寄ってもらえるよう雰囲気や機会を心がけて作っていく。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の祭りや行事には積極的に参加し、交流することに努めている。		さらに地域との交流を深められるような行事を検討していく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者に話し相手になると思うので気軽に立ち寄って等声をかけてはいるが、実際にそのような形での来館はなく取り組んでいるとはいえない。		緊急の際などに滞在してもらえようということができれば地域に貢献できるのではないかと考えているが、入居者の心身の低下等に伴い難しい面もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	理解し取り組んでいる。改善できることから取り組んでいる。具体的には今までに、手すりの位置を変えたり、理念を掲示したりした。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの現状報告、行事報告、事故報告、苦情報告などしている。またご意見をいただきサービス向上に役立てていくつもりだが、まだ回数も少なく活かしているとはいえない。		今後回数を重ね、貴重な意見をいただく場とし、それをサービス向上に役立てていく。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	担当者とは連絡を取り合っている。		さらに連携を深め、サービスの質の向上に努めていく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	一部の職員が研修で学んではいるが、事業所として考えると勉強不足である。		勉強会で取り上げていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束、虐待はしていないが、一部の職員が研修で学んではいるものの、事業所として考えると勉強不足である。		勉強会で取り上げていく。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に時間をかけて説明しており、理解・納得を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の意見や不満を尊重する意思はあるが、くみ取り方が十分とはいえないかもしれない。		もっと外部の人に話せる環境など考えていく。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	小遣いの出納、暮らしぶり等は1ヶ月に1度手紙を書いて報告している。健康状態や受診の結果などは必要に応じて随時電話で報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を重要事項説明書に記載したり、ホームの掲示板に掲示している。また毎月の手紙の中で意見等を促しているが、外部へ表せる機会は少ないと思われる。苦情があった場合は記録をとり職員間で話し合い、役場や運営推進会議で報告している。		気軽に言える場として運営推進会議などを活用していく。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	聞く耳は持ち、日常的に機会は持っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態の変化に応じて出勤時間を変えたり、入院、手術等による場合はその時々勤務の調整をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の退職時には新旧職員が重なって勤務し、余裕を持たせ、ダメージを最小限に抑える配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>早くホームに慣れてもらうことではなく、本人の気持ちを理解し受け止めていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居申し込み、事前面接時から話をして困っていることなどをよく聞く機会を作っている。入居後は特に変化が無くても電話をして話す機会を作っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている。	在宅生活が継続できるよう相談に乗るなどしており、無理に入所を勧めるようなこと はしていない。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用す るために、サービスをいきなり開始するのではな く、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染 めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学に来がてら入居者と一緒に過ごしてもらい雰囲気を味わってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人 から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活する中で、料理や畑や花壇作り、山菜採りなど入居者からも教えてもらう 関係を築き、喜怒哀楽を共にしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく 関係を築いている。	職員は家族と共に入居者を支援していく姿勢で取り組んでいる。入居後も面会時に 一緒にお茶を飲み楽しい時間を過ごしたり、また鍋会や温泉旅行などに一緒に参加 してもらっている。また面会時やカンファレンスなどで現状を伝え協力して頂くこ ともしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、よりよい関係が築いていけるように支援して いる。	同居していた方は今までとは違った形での家族関係になるが、一緒に支え合う関係 を築いていくことを伝えている。また今だけでなく、それまでの家族関係の理解に努め ながら支援している。		家族との信頼関係を深めていく中で、入居者と家族とのより良い関係作り の為、職員としてできることを考え支援していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努めて いる。	一人一人今までの行きつけの理美容室の利用を継続してもらったり、ドライブの時実 家の近くを通った際に止まって話を聞いたりしている。気軽になじみの人が面会で できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の生活の中で食事の声かけなど些細なことから入居者同士が関わり合い支え合えるように職員は配慮している。孤立しがちな人は職員がさがりがなく皆との関係作りができるようゲームに誘うなどして配慮している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後もそれまでの関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。通信を送付したり、行事に参加してもらったり、また入院等している方へは入居者と一緒に面会に行くなどしており、関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今日はどのように過ごしたいか、朝のパン食希望や食事のメニュー、入浴時間、希望の外出先や希望のパークゴルフ場など希望や意向の把握に努めている。		職員本位にならないよう常に心がけていく。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味・嗜好など入所時に聞いている。入居後も話の中から把握に努めている。家族にセンター方式アセスメント用紙の記入を依頼している。		信頼関係を築いていく中でより理解に努めながら、それを支援に活かしていく。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活歴、病歴などをふまえ心身の状態や有する力などの現状の把握に努めている。		加齢等に伴う心身状態の低下などより一人一人に細かい観察・把握を心がけていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者本人の希望を聞いた上で、職員全員で会議をし話し合っている。時には家族や主治医とも話し合いの場を作っており、それをケアプランにしている。		今後も入居者本位で、生活の質の向上に向けたケアプランの作成をしていく。センター方式を取り入れていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングをしている。入院時や体調の変化があった時などは現状に即した新たなプランを作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録をなるべく細かく書く努力をしている。また連絡ノートや申し送りなどでも情報の共有に努め、プランの実践や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	運転できない等家族の状況に応じて遠方の受診や入院時面会と一緒にいたり、行事や外泊の送迎をするなど柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察や消防には名簿を提出し、通信を入居者と一緒に配布し、理解して支援してもらえるよう努めている。民生委員や常会、老人クラブ連合会には運営推進会議へ参加してもらっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特老など他施設への入所の際などは話し合いを進めている。		地域の他のケアマネジャーやサービス事業者とは連携を深めていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは連絡を取っている。		より連携を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者個々の通院しているかかりつけ医に限られている。		社会資源を発掘していく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者個々の通院しているかかりつけ医に限られている。		社会資源を発掘していく。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者個々の通院しているかかりつけ医に限られている。		社会資源を発掘していく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会を多くし、精神的なダメージを減らす努力をしている。早く元の生活に戻れるよう、病院関係者との話し合いを進め、早期退院を依頼し実現している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族を交えたカンファレンスをしたりや家族と共に医師に話を聞く機会を設けるなどし、全員で方針を共有できるように努めている。		今後加齢による重度化も予想され、ますます必要になってくると思われる為、より関係者との話し合いや協力を図っていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	受診時や入院中に医師や看護師やソーシャルワーカーとの話し合いの中でホームの「できること・できないこと」を伝えながら、なるべくホームでの生活が継続できるよう話し合い支援している。		今後加齢による重度化も予想され、ますます必要になってくると思われる為、より関係者との話し合いや協力を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族及び本人に面接などして状況の把握に努め、またケア関係者にも積極的に連絡を取り、把握や情報交換をしながら住み替えによるダメージを防ぐことに努力している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう心がけてはいるが、充分とはいえない。個人情報の取り扱いについては十分配慮している。		職員は常に自分の立場に置き換え、誇りやプライバシーを損ねることがないように十分配慮する。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	わかる力に応じて簡単な設問で投げかけたり、簡単な説明を繰り返す等で納得できる場面を増やそうと支援している。		一人一人の力を十分見極めて、それぞれがより納得しながら暮らすことができるよう支援していく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	風呂の時間や外出の希望など一人一人の希望にそって支援するよう努めてはいるが、職員のペースで流れている1日もある。		より一人一人の興味・関心・性格・生活歴などを理解、把握した上で、毎日がその人にとってその人らしい暮らしができるよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	好きな服、髪型などでおしゃれができるよう支援している。理美容院は一人一人今までの行きつけの店を継続して利用できるよう支援しており、毛染めやバリカンも職員も支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー会議や買い物時に好みの献立を取り入れ食事が楽しみになるよう配慮している。また、その人の力を活かしながら、買い物・食事の支度・片づけも職員と入居者が共に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が好きなお菓子やおロザミンC、コーヒー、牛乳など好みの物を楽しめるよう日常的に支援している。自己管理ができない人、糖尿病の人へは職員が状況に合わせた支援をしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	リハビリパンツ使用で入居してもなるべく綿パンツに代えるよう支援している。その人の仕草や様子でさりげなくトイレ誘導している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週4回の入浴日は決まっているが、その日は全員が入浴できる体制となっている。好みの温度やタイミングで入浴できるよう配慮している。町内の温泉へも度々出かけている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	寝ることがいけないことだと考えている世代の入居者に対してさりげなく休むよう誘導したり、居眠りをしている人が気持ちよく休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の生活歴や趣味などを活かし、裁縫、畑仕事、花壇作り、編み物、パークゴルフ、手紙書き、行事の挨拶、また体力に応じた掃除の仕方など力を発揮したり、楽しんだりできるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	理解している。お金は希望や状況に応じて所持したり使えるよう支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>希望に添うよう支援している。日常的に外出の機会が多い。散歩、ドライブ、買い物、温泉、パークゴルフ、山菜採りなど。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>家族と外食や温泉に行く機会を支援したりしている。</p>		<p>よく話が出る故郷など家族と相談して個別旅行なども支援できればと考えている。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話の希望や手紙のやりとりなど状況に応じて支援している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでも気軽に訪問でき、和やかに過ごすことができるようお茶を出すなどして会話が弾むよう心がけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束は一切していない。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>一人で出て行く入居者がいても、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は所在や様子を見守り玄関やデッキの出口には特に注意を払っている。動き出した時は後をついている。		日常の観察から、ここまでは大丈夫と安心していると想定外のことがある場合もあるので油断をしないで見守りをしていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	針、薬、はさみなど状況に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。マッチ、ライターについては自己管理はしていない。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	管理者が防火管理者研修やリスクマネジメントの研修を受けたり、ホームで消火訓練・避難訓練を実施したりしている。入居者の状態に応じて2人介助をして事故防止に努めている。		今後もなるべく事故を防げるよう日常を観察し、ヒヤリハットを活かしていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的にホームの研修会として消防署の普通救急救命講習を受けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練をしたり、災害時持ち出し用の荷物を作ったりしている。		日頃より災害時に地域の人々の協力が得られるように働きかけてはならず、今後近所の人と一緒に避難訓練に参加して頂くなど取組んでいく必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	心身状況の低下等に伴いリスクが高まっていることなどは家族と共にカンファレンスを開いて説明している。身元引受人以外の家族にも参加してもらい家族の意見も聞いた上でホームの考え方も話し、考え方を共有できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾やまな板や包丁などの調理用具は毎日消毒したり、天日干しを実施している。また冷蔵庫内を定期的に掃除している。買い物へはまめに行くようにしており、時期的に野菜は温野菜にするなどの工夫もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	外に大きな表札を出したり、玄関先に花を植えている。また玄関内に生け花を飾ったり、季節のタペストリーを掛けたりして親しみやすい雰囲気を作っている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や食堂には季節の花を飾ったり、リビングや廊下には季節のタペストリーや写真を飾るなどして季節感を取り入れて居心地よく過ごせるよう配慮している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂、リビング、小あがりと自由に過ごせる共用空間がある。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人の使い慣れた家具や好みの物を置いて居心地よく過ごせるようにしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	まめに換気をしたり暖房の温度調節をしたりしている。加湿にも気を配っている。温度湿度計を置いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの位置やペーパーホルダーの位置を変えたり、立ち上がりに便利なようテーブルを設置したり、風呂場に滑り止めや手すりを設置したりして、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室の入り口に目印の人形を付けたり、生活歴にそった環境を整えるようにして自立支援に向け工夫している。</p>	<p>環境を整えることで、本人のわかる力を活かしてできるだけ混乱や失敗を防ぎ生活できるよう、より細かい観察をし工夫をしていく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>デッキにベンチを置いてひなたぼっこしたりプランターでの花作り、また畑や花壇、椎茸の栽培など外でも活動できるよう工夫している。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

サービスの実績に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

生きている喜びを実感できる毎日を提供できるように努力しており、明るい雰囲気、職員、入居者といった関係ではなく一緒に暮らしている家族のような雰囲気、毎日暮らしている。入居者が楽しめるような行事も多く取り入れている。地域の一員として社会とのつながりを大切にし、積極的に外出している。今までやってきたことなるべくできるよう支援している。歩行ができない入居者も同様に外出の機会を多く持っている。季節感を大事にし、季節にあった食材を使用、山菜採りやキノコ採りなども身体の状態に応じて支援している。家族とも共に本人を支える立場として、面会時など話をする機会を持っており、また入居者・家族・職員とが一緒になって楽しめる1泊旅行などを実施している。